

各 位

富山工場 原燃料転換により温室効果ガス排出量 16.9%削減を達成

日産化学株式会社（本社：東京都中央区，社長：木下小次郎）は、富山工場（富山県富山市）にて2016年8月から取り組んできた温室効果ガス（以下、GHG）排出量削減に対する、アンモニア系製品原燃料のナフサ及び重油から天然ガスへの転換について、一連の工事が完了したことをお知らせします。これらにより、富山工場におけるGHG削減量は、6万4千t-CO₂、GHG排出量は2015年度比16.9%削減を見込んでおります。



富山工場

産業革命からの気温上昇を2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をすることを目標とするパリ協定に基づいて、日本は2030年までにGHG排出量を2013年度比26%削減（約1.5%/年）することを目標としています。（*1）

また、世界の平均気温の上昇を2℃より十分低く抑えるために、企業に対して科学的な知見と整合したGHG削減目標を設定することを推進している Science Based Target イニシアチブ（SBTi）が、必須の目標レベルとして定めている削減目標は2.5%/年です。（*2）

富山工場では、2016～2020年の5年で16.9%（3.4%/年）の削減を見込んでおり、国の目標やSBTの必須の目標レベルを上回るペースでGHG排出量を削減しております。また、二酸化炭素（CO₂）のみならず、硫黄酸化物（SO_x）及び窒素酸化物（NO_x）の削減により、環境負荷低減にも寄与しております。

当社は、企業存続にかかわる重要課題の一つとして、「レスポンシブル・ケア活動の継続的強化」を掲げ、気候変動の緩和、汚染物質の排出削減などの目標を定め、富山工場の原燃料の転換工事などに取り組んでまいりました。

今後も企業として取り組むべき課題に対して、目標を着実に達成することにより、社会の持続的発展への貢献を実現してまいります。

以 上

(ご参考) 富山工場 アンモニア系製品製造における原燃料転換の経緯

1. 経緯

2016年8月	アンモニア原燃料転換	(ナフサ → 天然ガス)
2017年8月	メラミン熱媒加熱炉燃料転換	(重油 → 天然ガス)
2018年10月	シアヌル酸熱媒加熱炉燃料転換	(重油 → 天然ガス)
2020年8月	アンモニア補助ボイラー燃料転換	(重油 → 天然ガス)

2. 効果 (2015年度比)

GHG削減量	6万4千t-CO ₂
GHG削減率	16.9%

3. 設備投資額 (総額)

投資総額	17.8億円
------	--------

(*1)

参照記事:「パリ協定」のもとで進む、世界の温室効果ガス削減の取り組み② ～日本の目標と進捗は? (出典元:経済産業省 資源エネルギー庁)

https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/pariskyotei_sintyoku2.html

(*2)

環境省 HP より SBT 概要資料を参照

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/intr_trends.html

本件に関するお問い合わせ先

日産化学株式会社 経営企画部 CSR・広報室
(東京都中央区日本橋 2-5-1 日本橋高島屋三井ビルディング)
TEL:03-4463-8123
E-mail: csr_pr@nissanchem.co.jp